

# 「寺子屋アジア」は必要か

放  
眼  
日  
中

最近は何安が続いており、海外を旅する筆者にとつては辛い日々が続いている。

日本で先日、ある男子大学生から「円安、いいですね。株も上がったし、企業業績も伸びたし、良い政策です」と言われたので、旅費が減ってガツカリしていたこともあり、つい「本当に良いことばかりなの？ 牛丼だって値上がりしたじゃないか」と主張すると、「そうですね、僕も牛丼食べる回数減りました」と言うではないか。じゃあランチは何を食べているのと聞いてみると、「コンビニのおにぎり2個です。確かに円安って、良いことばかりじゃありませんね」となった。

別の女子学生からは、「テレビのニュースで日本のGDPがマイナス成長になったと言っていましたか？ それって悪いことなんですか？ な

んかピンとこなくて」と言われたので、「専門的なことは大学の先生に聞いてほしいのだけれど、経済がマイナス成長ということは、確実にありますよ」と答えると、「えー、それは大変だ。何で政府は有効な対策を取らないんですか」と聞かれて、苦笑した。自分のこととなると、途端に思い当たるものが出てくるらしい。

筆者が拠点としているタイで日本人ビジネスマンと話していると、「2015年はアセアン統合の年で成長も見込めるので、アジアの株でも買っておこうと思います。どんな銘柄がいいですかね？」と聞かれたので、「なぜ株など買おうとするのですか。15年の新興国経済はかなり厳しいのではありませんか？ ドル

は高くなるが、タイのバーツは安くなるかもしれませんよ。もし長期保有が前提ならタイ株の配当率は3〜5%程度。現在、タイの銀行に1年の定期預金にしても3%はもらえますよ。値上がり期待できず為替も取れないなら、投資するのは待つてもよいのでは？」と回答すると、「それは知らなかった」と驚かれた。筆者は5年前に東京で大学生を対象とした「寺子屋チャイナ」という勉強会を開いたことがある。「中国（チャイナ）の基礎を学ぶ」ことを目的に、しかも実践に即した内容を伝えようという試みだった。

それが当時の学生たちの役に立ったのかどうかは分からないが、社会人の中から勉強会をやりたいという声が上がリ、数年続けていた。社会人の場合は、実践的テーマに加え、現場で実務をやってきた人や現

場で学んできた人に講師をお願いした。結果としては、良いメンバーが集まり、相互のネットワーク拡大にも寄与し、仕事上でもプライベートでも話ができる仲間が作れた、と自負している。

15年のアセアン統合は、既に関税などがほぼ撤廃されていることを考えると、果たしてどれだけの効果があるのか。各国にメリットがあるかどうか、不透明な中で始まる。EUのように共通の通貨ができたり、通行が本当に自由になったりするわけではない。よく見えない中で、また「アジアの時代」が叫ばれていく可能性がある。今度はアジアのどこかで「寺子屋アジア」を開く必要があるのではないか、と感じている。そして真剣に自分のこととして、タイの株を買うのか、定期預金にするのか、皆で勉強してみたい。



コラムニスト・アジアウォッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。